

I 穀物  
1 小麦

(1) 国際的な小麦需給の概要（詳細は右表を参照）

<米国農務省（USDA）の見通し>

【生産量】 2016/17年度 前年度比 ↓ 前月比 -

生産量は、ロシア、インド等で増加するものの、EU、米国等で減少することから、世界全体では史上最高の前年度を下回る727.0百万トンとなる見込み。

【消費量】 2016/17年度 前年度比 ↑ 前月比 -

消費量は、EUで飼料用需要の減退に伴い減少、中国でも減少するものの、インドで食料用需要が堅調なため増加すること等から、世界全体では712.6百万トンと4年連続で史上最高を更新する見込み。

【貿易量】 2016/17年度 前年度比 ↓ 前月比 -

世界全体の貿易量は、前年度より減少し、163.9百万トンとなる見込み。  
国別には、輸出国では、米国、EU等で増加し、ウクライナ、カナダで減少する見込み。輸入国では、トルコ等で増加し、EU等で減少する見込み。

【期末在庫量】 2016/17年度 前年度比 ↑ 前月比 -

期末在庫量は、前年度より増加し、世界全体で史上最高の257.3百万トンとなる見込み。  
国別には、インド、イランで在庫が取り崩されるものの、中国等で積み増しされる見込み。世界全体の期末在庫率は36.1%と前年度より上昇する見込み。

図-1 世界の小麦のシェア (2016/17年度)

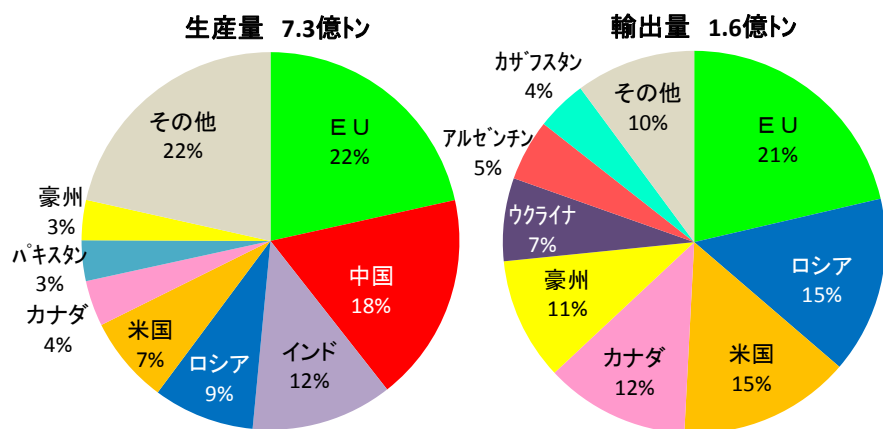


表-1 世界の小麦需給 (米国農務省)

(単位:百万トン)

年度	2014/15	2015/16 (見込み)	2016/17		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
<b>生産量</b>	<b>726.9</b>	<b>734.1</b>	<b>727.0</b>	-	▲ 1.0
EU	156.8	160.0	156.5	-	▲ 2.2
中国	126.2	130.2	130.0	-	▲ 0.1
インド	95.9	86.5	88.0	-	▲ 1.7
ロシア	59.1	61.0	63.0	-	▲ 3.2
米国	55.2	55.8	54.4	-	▲ 2.6
カナダ	29.4	27.6	28.5	-	▲ 3.3
パキスタン	26.0	25.1	25.3	-	▲ 0.8
<b>消費量</b>	<b>704.6</b>	<b>707.7</b>	<b>712.6</b>	-	▲ 0.7
うち飼料用	130.8	133.9	131.1	-	▲ 2.1
EU	123.5	128.8	126.8	-	▲ 1.6
中国	116.5	112.0	110.5	-	▲ 1.3
インド	93.1	88.7	92.0	-	▲ 3.6
ロシア	35.5	37.0	37.5	-	▲ 1.4
米国	31.6	31.7	32.7	-	▲ 3.1
パキスタン	24.5	24.4	24.5	-	▲ 0.4
エジプト	19.1	19.2	19.7	-	▲ 2.6
<b>貿易量</b> (輸出)	<b>164.1</b>	<b>166.9</b>	<b>163.9</b>	-	▲ 1.8
EU	35.4	32.5	35.0	-	▲ 7.7
ロシア	22.8	24.5	24.5	-	-
米国	23.3	21.2	23.8	-	▲ 12.2
カナダ	24.2	22.5	20.0	-	▲ 11.1
豪州	16.6	16.5	17.0	-	▲ 3.0
ウクライナ	11.3	15.5	11.5	-	▲ 25.8
アルゼンチン	5.3	8.5	8.5	-	-
(輸入)					
エジプト	11.1	12.0	12.0	-	-
インドネシア	7.5	8.6	8.7	-	▲ 1.2
アルジェリア	7.3	8.1	7.5	-	▲ 7.4
EU	6.0	6.5	5.5	-	▲ 15.4
日本	5.9	5.7	5.7	-	-
ブラジル	5.4	6.0	5.8	-	▲ 3.3
トルコ	5.9	4.3	4.5	-	▲ 4.7
<b>期末在庫量</b>	<b>216.5</b>	<b>242.9</b>	<b>257.3</b>	-	▲ 5.9
中国	76.1	96.3	118.0	-	▲ 22.5
米国	20.5	26.6	28.0	-	▲ 5.2
EU	13.8	19.0	19.2	-	▲ 1.1
インド	17.2	14.5	11.2	-	▲ 23.1
イラン	7.8	8.1	5.9	-	▲ 27.0
ロシア	6.3	6.6	8.1	-	▲ 22.6
カナダ	7.1	3.9	4.1	-	▲ 4.9
<b>期末在庫率</b>	<b>30.7%</b>	<b>34.3%</b>	<b>36.1%</b>	-	▲ 1.8

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「Grain: World Markets and Trade」、 「PS&D」、  
「World Agricultural Production」 (10 May 2016)

(2) 小麦の主要生産・輸出国等の需給状況

ア 米国

【需給状況】(詳細は右表を参照)

＜米国農務省の見通し＞

生産量は、単収が上昇するものの、収穫面積が減少することから前年度より減少し、54.4百万トンとなる見込み。

消費量は、飼料用需要が増加すること等から前年度より増加し、32.7百万トンとなる見込み。

輸出量は、44年振りの低水準となった前年度より増加するものの、他の主要輸出国の供給量が潤沢であることから、23.8百万トンと引き続き低調となる見込み。

期末在庫量は、前年度より増加するものの、期末在庫率は49.5%に低下する見込み。

【生育進捗状況及び作柄】

＜冬小麦＞

2016/17年度の播種作業は2015年9～11月に行われた。2015年9月の高温乾燥型の天候により発芽や初期生育が懸念されたが、10～12月の降雨により大平原南部や南部中央で作柄が改善した。一方、中西部を含む一部産地では降雨過多となり、播種や生育が遅延した。冬季は比較的温暖となり、大平原中部・南部では例年より早く休眠明けを迎えた。

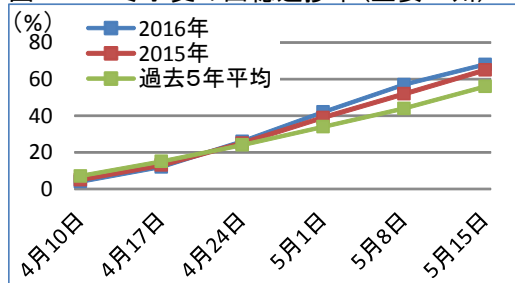
米国農務省(USDA)「Crop Progress」(2016.5.16)によれば、5月15日時点の主要18州の出穂進捗率は68%と、前年同期(65%)、過去5年平均(56%)を上回り、作柄評価は良/やや良が62%と、前年同期(45%)を上回っている。(図-2) <春小麦>

2016/17年度の播種作業は2016年4月から開始され、USDA「Crop Progress」(2016.5.16)によれば、5月15日時点の主要6州の発芽進捗率は60%と、前年同期(63%)を下回っているものの、過去5年平均(36%)を上回っている。(図-3)

【貿易情報】

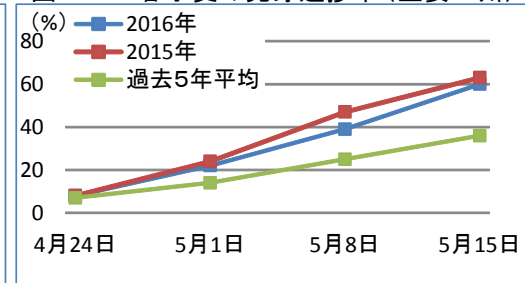
USDA「Wheat Outlook」(2016.5.10)によれば、2015/16年度の輸出成約高は、4月28日時点で20.3百万トンとなった。

図-2 冬小麦の出穂進捗率(主要18州)



資料：USDA「Crop Progress」(2016.5.16)をもとに農林水産省で作成

図-3 春小麦の発芽進捗率(主要6州)



我が国の輸入先国シェア 1位(2015年数量ベース 50.5%)  
 世界の生産量シェア 5位(2016/17年度 7.5%)  
 輸出量シェア 4位(2016/17年度 14.5%)

表-2 米国の小麦需給(市場年度：6月～翌年5月)

年 度	2014/15	2015/16 (見込み)	2016/17		
			予 測 値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	55.2	55.8	54.4	-	▲ 2.6
消費量	31.6	31.7	32.7	-	3.1
うち飼料用	3.3	3.8	4.6	-	21.5
輸出量	23.3	21.2	23.8	-	12.2
輸入量	4.1	3.3	3.5	-	8.3
期末在庫量	20.5	26.6	28.0	-	5.2
期末在庫率	37.4%	50.2%	49.5%	-	▲ 0.7

(参考)

収穫面積(百万ha)	18.77	19.06	17.31	-	▲ 9.2
単収(t/ha)	2.94	2.93	3.14	-	7.2

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
 「Grain : World Markets and Trade」、  
 「World Agricultural Production」(10 May 2016)

写真-1 カンザス州 乳熟期を迎えた冬小麦(2016年4月19日撮影)



写真提供：Jenny Burgess氏

## イ カナダ

【需給状況】（詳細は右表を参照）

### ＜米国農務省の見通し＞

生産量は、春小麦が減少するものの冬小麦が増加することから前年度より増加し、28.5百万トンとなる見込み。

消費量は、前年度並みの8.8百万トンとなる見込み。

輸出量は、生産量が増加するものの前年度からの繰越在庫が少ないことから前年度より減少し、20.0百万トンとなる見込み。

期末在庫量は、前年度より増加し、期末在庫率も14.1%に上昇する見込み。

### 【生育進捗状況及び作柄】

#### ＜冬小麦＞

2016/17年度の播種作業は2015年9月頃から行われ、主産地のオンタリオ州で2014年秋に比べて播種条件がかなり良好であったこと等により、カナダ全体の播種面積は前年度に比べ24.5%増の69.8万ヘクタールとなった。

農業市場情報システム(AMIS)「Market Monitor」(2016.5.5)によれば、プレーンズ(アルバータ州南東部からマニトバ州南西部の平原)西部では乾燥しているものの、主産地の東部や中央部における作柄は良好となっている。

#### ＜春小麦＞

2016/17年度の播種作業は2016年4月下旬から開始されている。

国際穀物理事会(IGC)「Grain Market Report」(2016.4.28)によれば、デュラム小麦の播種面積は増加するものの、春小麦は他作物への転作により減少する見込み。

IGC「Grain Market Indicators」(2016.5.17)によれば、温暖乾燥型の天候を受けて播種作業が進展し、大部分の産地で作業中盤を迎えている。

サスカチュワン州農業省「Crop Report」によれば、播種作業は4月中旬から開始され、5月16日時点の播種進捗率は春小麦51%、デュラム小麦63%と、概ね順調に進展している。

アルバータ州農林業省「Alberta Crop Report」によれば、乾燥型の天候で播種作業が順調に進展し、5月10日時点の春小麦の進捗率は56.0%となっている。土壌水分量は、並～不足の割合が63%(前週56%)と水分不足が進行しているが、大部分の産地では発芽への悪影響はない模様。

マニトバ州農業食品地域開発省「Crop Report」によれば、5月上旬は適度な降雨に恵まれて播種が進展し、5月16日時点の春作物全体の播種進捗率は61%。なお、中旬の気温低下と降雨・降雪で作業や発芽・初期生育が停滞した模様。

### 【貿易情報・その他】

カナダ穀物協会(CGC)「Grain Statistics Weekly」によれば、2015/16年度の輸出量累計は、2016年5月15日時点で普通小麦13.0百万トン(対前年同期比2.4%減)、デュラム小麦3.9百万トン(同5.5%減)となっている。

（我が国の輸入先国シェア2位（2015年数量ベース 29.2%）  
世界の生産量シェア 6位（2016/17年度 3.9%）  
輸出量シェア 4位（2016/17年度 12.2%）

表－3 カナダの小麦需給（市場年度：8月～翌年7月）

年 度	2014/15	2015/16 (見込み)	2016/17		
			予測値、( )はAAFC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	29.4	27.6	28.5 (28.9)	-	3.3
消費量	9.1	8.8	8.8 (8.7)	-	-
うち飼料用	3.8	3.6	3.6 (3.7)	-	-
輸 出 量	24.2	22.5	20.0 (20.8)	-	▲ 11.1
輸 入 量	0.5	0.5	0.5 (0.1)	-	-
期末在庫量	7.1	3.9	4.1 (3.7)	-	4.9
期末在庫率	21.3%	12.3%	14.1% (12.4%)	-	1.7
(参考)					
収穫面積(百万ha)	9.48	9.60	9.45 (9.48)	-	▲ 1.6
単収(t/ha)	3.10	2.88	3.02 (3.05)	-	4.9

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「Grain: World Markets and Trade」、  
「World Agricultural Production」(10 May 2016)  
AAFC 「Outlook For Principal Field Crops」(18 May 2016)

写真－2 カナダ東部 オンタリオ州（2016年5月2日撮影）

－順調に生育し、節間伸長期を迎えた冬小麦－



写真提供：Jonathan Follings氏

## ウ 豪州

【需給状況】（詳細は右表を参照）

### <米国農務省の見通し>

生産量は、前年度より増加し、25.0百万トンとなる見込み。

消費量は、前年度より増加し、7.5百万トンとなる見込み。

輸出量は、生産増に伴い前年度より増加し、17.0百万トンとなる見込み。

期末在庫量は、前年度より増加し、期末在庫率も23.0%に上昇する見込み。

### 【生育進捗状況及び作柄】

播種作業は、例年4～6月頃に行われる。

2016/17年度の播種作業は2016年4月から開始され、現地調査会社によれば、4月末時点の播種進捗率は、西オーストラリア州で40%、南オーストラリア州で25%、ビクトリア州で20%、ニューサウスウェールズ州及びクイーンズランド州では15%となっている。

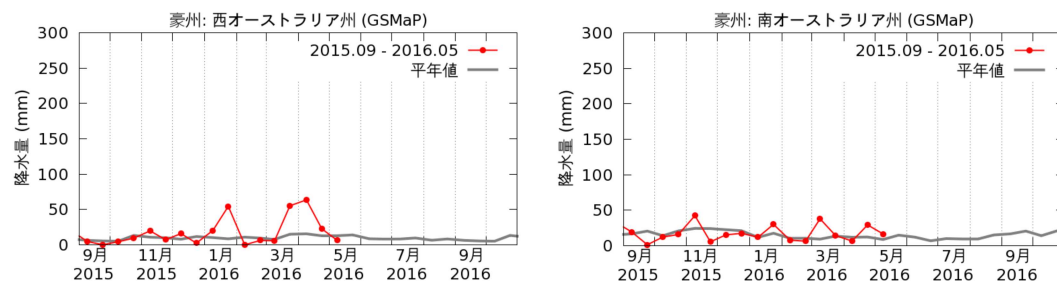
米国農務省(USDA)「World Agricultural Weather Highlights」(2016.5.10)によれば、西部の西オーストラリア州では播種前に季節はずれの雨を受けて土壌水分量が適量～過多となり、播種作業の開始が早まった。また、東部の南オーストラリア州でも、播種前の4月に平年を上回る降雨に恵まれ、土壌水分量が上昇した。(図-4)一方、東部のその他の産地では、4月の降水量が平年を下回るとともに気温が平年を上回っており、播種前の降雨が待たれる状況。

### 【貿易情報・その他】

国際穀物理事会(IGC)「Grain Market Report」(2016.4.28)によれば、2016/17年度は、厳しい価格競争に直面する米国の輸出量が前年度より微増するものの、カナダでは生産減に伴う需給ひっ迫により輸出量が減少する中、豪州産についてはアジア地域からの引き合いが強まると見られることから、同国の輸出量は、前年度(17.4百万トン)を上回る18.2百万トンとなる見込み。

図-4 西オーストラリア州と南オーストラリア州の降水量

— 両州では、播種前の降雨に恵まれた —



資料：JAXA提供「降水量(GSMaP)」

我が国の輸入先国シェア 3位 (2015年数量ベース 16.3%)  
 世界の生産量シェア 8位 (2016/17年度 3.4%)  
 輸出量シェア 5位 (2016/17年度 10.4%)

表-4 豪州の小麦需給 (市場年度：10月～翌年9月)

年 度	2014/15	2015/16 (見込み)	2016/17		
			予測値、( )はABARES	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	23.1	24.5	25.0 (24.5)	-	2.0
消費量	7.2	7.2	7.5 (…)	-	3.2
うち飼料用	3.8	3.8	4.0 (…)	-	5.3
輸出量	16.6	16.5	17.0 (17.3)	-	3.0
輸入量	0.2	0.2	0.2 (…)	-	-
期末在庫量	4.0	4.9	5.6 (…)	-	14.0
期末在庫率	16.8%	20.8%	23.0% (…)	-	2.2
(参考)					
収穫面積(百万ha)※	12.16	12.75	13.00 (12.73)	-	2.0
単収(t/ha)	1.90	1.92	1.92 (1.92)	-	-

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
 「Grain: World Markets and Trade」、  
 「World Agricultural Production」(10 May 2016)  
 ABARES 「Agricultural commodities」(1 March 2016) (※ABARESは作付面積)

写真-3 西オーストラリア州 ミンゲニュー(2016年5月3日撮影)

— 播種後のを受けて発芽した小麦畑 (2016年4月16日播種) —



写真提供：Australian Crop Forecasteres

エ EU

【需給状況】（詳細は右表を参照）

＜米国農務省の見通し＞

生産量は、収穫面積が増加するものの単収が低下することから、史上最高となった前年度より減少し、156.5百万トンとなる見込み。

消費量は、飼料用需要が小麦から粗粒穀物に移行することに伴い減退することから前年度より減少し、126.8百万トンとなる見込み。

輸出量は、生産量や前年度からの繰越在庫が多いことから前年度より増加し、35.0百万トンとなる見込み。

輸入量は、前年度より減少し、5.5百万トンとなる見込み。

期末在庫量は前年度より増加し、期末在庫率も11.9%に上昇する見込み。

【生育進捗状況及び作柄】

2016/17年度の冬小麦の播種作業は、2015年8月から11月半ばに行われ、5月中旬時点で北部では生殖成長期、南部では登熟期を迎えている。

米国農務省(USDA)「World Agricultural Production」(2016.5.10)によれば、生産量の9割程度を占める冬小麦は、播種時期の昨秋に乾燥に見舞われたポーランドやドイツでは播種面積が減少したものの、播種以降、大部分の産地では十分な降雨と温暖な天候に恵まれたことから、3年連続の豊作が見込まれている。なお、冬季の気温が比較的温暖となったため凍害が少なかったものの、積雪(スノーカバー)がなかったポーランドやドイツ東部、バルト諸国の一部では、寒波による凍害に見舞われた。

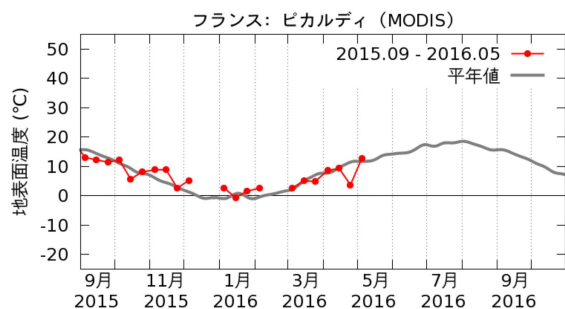
最終的な単収は5～6月の天候次第で大きく変動する可能性があるが、現時点のEU全体の2016/17年度の実産量は、156.5百万トンと史上最高となった前年度を下回るものの、過去5年平均(146.7百万トン)を上回る見込み。

USDA「World Agricultural Weather highlights」(2016.5.10)によれば、4月下旬、スペイン北西部とフランス北部からポーランドにかけて寒波に見舞われた。(図-5)

【貿易情報・その他】

欧州委員会「Export and import commitments」によれば、2015/16年度(2015年7月～)の輸出量は、2016年5月17日時点で、軟質小麦(小麦粉を含む)は28.5百万トン(対前年度同期比3.1%減)、デュラム小麦は0.9百万トン(同8.8%減)となっている。

図-5 フランス北部ピカルディの地表面温度の推移  
-2016年4月下旬、フランス北部は寒波に見舞われた-



資料：JAXA提供「地表面温度(MODIS)」

我が国の輸入先国シェア5位 (2015年数量ベース 1.8%)  
世界の生産量シェア 1位 (2016/17年度 21.5%)  
輸出量シェア 1位 (2016/17年度 21.4%)

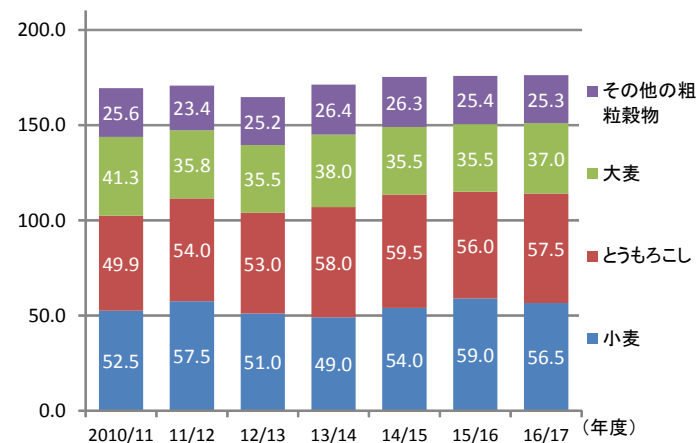
表-5 EUの小麦需給 (市場年度：7月～翌年6月)

年 度	2014/15	2015/16 (見込み)	2016/17		
			予測値、( )はEU	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	156.8	160.0	156.5 (151.6)	-	▲ 2.2
消費量	123.5	128.8	126.8 (127.2)	-	▲ 1.6
うち飼料用	54.0	59.0	56.5 (54.0)	-	▲ 4.2
輸出量	35.4	32.5	35.0 (28.3)	-	7.7
輸入量	6.0	6.5	5.5 (5.2)	-	▲ 15.4
期末在庫量	13.8	19.0	19.2 (20.8)	-	1.1
期末在庫率	8.7%	11.8%	11.9% (13.3%)	-	0.1
(参考)					
収穫面積(百万ha)	26.73	26.76	26.81 (26.75)	-	0.2
単収(t/ha)	5.87	5.98	5.84 (5.70)	-	▲ 2.3

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「Grain: World Markets and Trade」、  
「World Agricultural Production」(10 May 2016)  
EU 「Balance Sheets For Cereals and Oilseeds and Rice」(28 April 2016)

図-6 EUにおける飼料用穀物需要の推移

-2016/17年度は、とうもろこし、大麦等の粗粒穀物に移行することから、小麦の需要は減退する見込み-  
(百万トン)



資料：USDA「PS&D」をもとに農林水産省で作成

## オ 中国

(世界の生産量シェア 2位 (2016/17年度 17.9%))  
表-6 中国の小麦需給 (市場年度: 7月~翌年6月)

(単位:百万トン)

年 度	2014/15	2015/16 (見込み)	2016/17		
			予測値、( ) はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	126.2	130.2	130.0 (127.4)	-	▲ 0.1
消費量	116.5	112.0	110.5 (115.7)	-	▲ 1.3
うち飼料用	16.0	10.5	9.5 (15.0)	-	▲ 9.5
輸 出 量	0.8	1.0	1.0 (0.4)	-	-
輸 入 量	1.9	3.0	3.2 (2.0)	-	6.7
期末在庫量	76.1	96.3	118.0 (89.9)	-	22.5
期末在庫率	64.9%	85.2%	105.8% (77.4%)	-	20.6
(参考)					
収穫面積(百万ha)	24.07	24.14	24.30 (24.30)	-	0.7
単収(t/ha)	5.24	5.39	5.35 (5.24)	-	▲ 0.7

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「Grain: World Markets and Trade」、  
「World Agricultural Production」(10 May 2016)  
IGC 「Grain Market Report」(28 April 2016)

### 【生育進捗状況及び作柄】

#### <冬小麦>

2016/17年度の播種作業は2015年9~11月頃に行われた。冬季は、乾燥で播種が遅れた中国北部で11月に日照不足に、雲南省及び四川省の一部でも2016年1~2月に凍害に見舞われたものの、大部分では好天に恵まれた。春以降、華北地区北東部、黄淮地域(黄河と淮河の間)北部等で乾燥型の天候が続いたが、大部分では生育に適した温暖湿潤型の天候となり、5月には収穫作業が開始された。

中国中央气象台「農業気象週報」(2016.5.16)によれば、開花期~結実期を迎えた中国北部の大部分で5月中旬に雨が降り、河北省中部や河南省北部では干ばつ状態が緩和した。南部では成熟期~収穫期を迎え、うち、雲南省では収穫作業がほぼ終了している。

#### <春小麦>

2016/17年度の播種は2016年3月に開始され、中国中央气象台「農業気象週報」(2016.5.16)によれば、5月の降雨で発芽や初期生育が順調に進展し、西北地区で分げつ期~節間伸長期、華北地区内モンゴル自治区中部及び東北地区北部で三葉期~分げつ期を迎えている。

### 【貿易情報・その他】

中国税関(海関)統計によれば、2016年1~4月の小麦輸入量累計は85.9万トン(対前年同期比43.6%増)となった。国別内訳は、豪州42.2万トン(シェア49.1%)、カナダ24.8万トン(同28.9%)、カザフスタン14.8万トン(同17.3%)となっている。

米国農務省(USDA)「Grain:World Market & Trade」(2016.5.10)によれば、2016/17年度の消費量は、飼料用需要が小麦から粗粒穀物へ移行すること等から減少する見込み。

## カ インド

(世界の生産量シェア 3位 (2016/17年度 12.1%))  
表-7 インドの小麦需給 (市場年度: 4月~翌年3月)

(単位:百万トン)

年 度	2014/15	2015/16 (見込み)	2016/17		
			予測値、( ) はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	95.9	86.5	88.0 (90.0)	-	1.7
消費量	93.1	88.7	92.0 (92.4)	-	3.6
うち飼料用	4.5	4.2	4.5 (4.0)	-	7.1
輸 出 量	3.4	1.0	0.4 (0.3)	-	▲ 60.0
輸 入 量	0.1	0.5	1.0 (1.0)	-	100.0
期末在庫量	17.2	14.5	11.2 (12.8)	-	▲ 23.1
期末在庫率	17.8%	16.2%	12.1% (13.8%)	-	▲ 4.1
(参考)					
収穫面積(百万ha)	30.47	30.60	29.40 (29.30)	-	▲ 3.9
単収(t/ha)	3.15	2.83	2.99 (3.07)	-	5.7

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「Grain: World Markets and Trade」、  
「World Agricultural Production」(10 May 2016)  
IGC 「Grain Market Report」(28 April 2016)

### 【生育進捗状況及び作柄】

2016/17年度の播種作業は2015年10月中旬~2016年1月末頃に行われた。農業市場情報システム(AMIS)「Market Monitor」(2016.5.5)によれば、作柄は良好で、収穫作業は終盤に近づいている模様。

米国農務省(USDA)「Wheat Outlook」(2016.5.12)によれば、2016/17年度の生産量は前年度を1.5百万トン上回る88.0百万トンとなる見込み。これは、モンスーン期の雨不足による播種前の土壌水分不足及び播種時期の高温型の天候のため播種面積が減少したものの、単収が収穫期の大雨により悪影響を受けた前年度を上回るため。

インド農業省は、第3次生産量予想(2016.5.9)において、2016/17年度の小麦生産量が94.0百万トンと、前年度を7.5百万トン上回るとの見通しを示した。

### 【貿易情報・その他】

インドは、7月1日時点の政府在庫に関し、政府備蓄3.0百万トン、緩衝在庫24.6百万トンの計27.6百万トンを目標としているところ、インド食料公社(FCI)データによれば、2016年5月1日時点の政府在庫量は31.4百万トン(前年同期34.1百万トン)となっている。

2016年2月15日、インド消費者食料公共配給省は、2016/17年度の小麦の政府買入目標数量について、前年度の買入数量(28.1百万トン)を上回る30.0百万トンとしているところ、FCIデータによれば、2016年5月9日時点の買入数量は22.1百万トンとなっている。

キ ロシア

【需給状況】（詳細は右表を参照）

＜米国農務省の見通し＞

生産量は、収穫面積が減少するものの冬小麦の作柄が良好で単収が上昇することから前年度より増加し、史上2番目となる63.0百万トンとなる見込み。

消費量は、前年度より増加し、37.5百万トンとなる見込み。

輸出量は、前年度並みの24.5百万トンとなる見込み。

期末在庫量は、前年度より増加し、期末在庫率も13.1%に上昇する見込み。

【生育進捗状況及び作柄】

＜冬小麦＞（生産量の7割程度）

2016/17年度の播種作業は2015年8月末から10月末に行われ、収穫作業は2016年6月下旬頃から開始される予定。

米国農務省(USDA)「World Agricultural Production」(2016.5.10)によれば、主産地の南部連邦管区及び北部コーカサス連邦管区の作柄が良好なため、生産量は前年度を上回る見込み。また、中央連邦管区及び沿ヴォルガ連邦管区では、2015年秋の乾燥により発芽や初期生育への悪影響が懸念されたが、2016年春の温暖湿潤型の天候を受けて初期生育期の遅れを取戻し、生育ペースは平年を上回っている模様。

ロシア気象センターによれば、4月中旬の気温上昇を受けて下旬には全ての地域で生長を再開し、4月末時点で節間伸長期～止葉期を迎えている。土壌水分量も大部分の産地で十分となり、作柄は良好～並となっている。

＜春小麦＞

2016/17年度の春作物の播種作業は2016年2月下旬に開始された。4月の播種条件は良好～平年並みとなり、5月16日時点の春穀物全体の播種面積は1,720万ヘクタール、進捗率は55.4%となっている。

【貿易情報、その他】

ロシア連邦税関局によれば、2015/16年度(2015年7月～)の小麦輸出量累計は、2016年3月末時点で20.6百万トン（対前年度同期比6.7%増）となった。

現地調査会社によれば、4月は世界的な上げ相場を背景にロシアの輸出価格相場も上昇し、輸出が好調だったが、輸出用在庫は既に少なく、5月以降の輸出ペースは落ちると見られる。

2016年5月6日、トカチョフ農業大臣は、中国向け小麦輸出に関し、「今年には第一弾の大口輸出が出来る」と考えた。2015年12月の両国間の合意による輸出解禁はシベリア地域の一部産地の小麦に限られるところ、同大臣は、「南部の港湾への出口がない同地域の輸出解禁は新たな可能性を生むことになる。中国以外にも日本や韓国などのアジア諸国に小麦を輸出できる可能性もある」と発言。

5月16日、中国の食品大手「中粮集団」(COFCO)の于旭波総裁は、ロシア小麦の輸入について、年間100～200万トン以上の輸入を検討していると発言。今後の購入量は価格や品質等を検討して判断するとしつつも、国内消費だけではなく他国への再輸出も視野に、年間400～500万トンに達する可能性もあると述べた。

（世界の生産量シェア 4位 (2016/17年度 8.7%)）  
（輸出量シェア 2位 (2016/17年度 14.9%)）

表－8 ロシアの小麦需給（市場年度：7月～翌年6月）

(単位:百万トン)

年 度	2014/15	2015/16 (見込み)	2016/17		
			予測値、( )はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	59.1	61.0	63.0 (59.0)	-	3.2
消費量	35.5	37.0	37.5 (36.5)	-	1.4
うち飼料用	13.0	14.0	14.5 (14.0)	-	3.6
輸 出 量	22.8	24.5	24.5 (23.4)	-	-
輸 入 量	0.3	0.8	0.5 (0.5)	-	▲ 37.5
期末在庫量	6.3	6.6	8.1 (7.2)	-	22.6
期末在庫率	10.8%	10.8%	13.1% (12.0%)	-	2.3
(参考)					
収穫面積(百万ha)	23.64	25.58	25.50 (24.50)	-	▲ 0.3
単収(t/ha)	2.50	2.39	2.47 (2.41)	-	3.3

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「Grain: World Markets and Trade」、  
「World Agricultural Production」(10 May 2016)  
IGC 「Grain Market Report」 (28 April 2016)

写真－4 ロシア南部ヴォルゴグラード州エランスキー地区  
一順調に生育し、節間伸長期を迎えた冬小麦畑－  
(2016年5月10日撮影)  
同地域の作柄は7割が良好、3割が例年並み。



## ク ウクライナ

【需給状況】（詳細は右表を参照）

### ＜米国農務省の見通し＞

生産量は、収穫面積が減少するとともに単収が低下することから前年度より減少し、24.0百万トンとなる見込み。

消費量は、前年度並みの12.5百万トンとなる見込み。

輸出货量は、生産減に伴い前年度より減少し、11.5百万トンとなる見込み。

期末在庫量は、前年度より増加し、期末在庫率も19.0%に上昇する見込み。

### 【生育進捗状況及び作柄】

#### ＜冬小麦＞（生産量の9割以上）

2016/17年度の播種作業は2015年9月に開始されたが、乾燥のため作業が遅延し、ウクライナ農業政策食料省によれば、播種面積は598万ヘクタールと前年度を12%下回った。12月末の気温低下に伴い一部産地では生育不足のまま休眠入りしたが、越冬条件は平年並みとなり、2016年3月上旬には温暖な気候を受けて国内全域で生長を再開した。

現地調査会社によれば、4月も引き続き温暖となり、上旬は南部で乾燥型の天候となったものの、中旬以降は同国全域で雨が降って生育が進展し、4月末時点で節間伸長期～止葉期を迎え、南部の一部では平年より2～3週間早く出穂期が始まった。中央部と北部の一部で土壤水分不足による黄化が見られるものの、作柄は総じて良好～並となっている。

米国農務省(USDA)「World Agricultural Production」(2016.5.10)によれば、昨秋の乾燥で播種面積が減少したものの、春の温暖湿潤型の天候で作柄が改善し、減産幅は当初見込みより小さいと見られる。

#### ＜春小麦＞

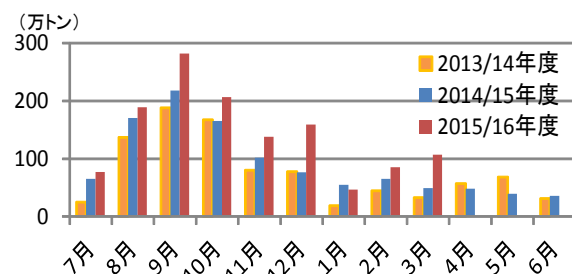
2016/17年度の播種作業は2016年3月から開始され、4月下旬にはほぼ終了した。ウクライナ農業政策食料省(2016.5.12)によれば、播種面積は16.4万ヘクタールとなった。

現地調査会社によれば、4月末時点で発芽期～分けつ期を迎え、南部の一部で虫害が報告されているものの、作柄は総じて良好となっている。

### 【貿易情報・その他】

ウクライナ税関によれば、2015/16年度(2015年7月～)の小麦輸出货量累計は、2016年3月末時点で前年度同期比33.6%増の12.9百万トンとなった(図-7)。国別内訳は、タイ2.0百万トン(シェア16.0%)、エジプト1.6百万トン(同12.1%)、インドネシア1.0百万トン(同8.1%)等。

図-7 ウクライナ産小麦の月別輸出货量の推移  
- 2016年3月までの輸出货量は前年度同期を上回った -



資料：ウクライナ税関データを基に農林水産省で作成

我が国の輸入先国シェア 4位 (2015年数量ベース 2.1%)  
世界の生産量シェア 9位 (2016/17年度 3.3%)  
輸出货量シェア 6位 (2016/17年度 7.0%)

表-9 ウクライナの小麦需給 (市場年度：7月～翌年6月)

年 度	2014/15	2015/16 (見込み)	2016/17		
			予測値、( )はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	24.8	27.3	24.0 (21.5)	-	▲ 12.0
消費量	12.0	12.5	12.5 (12.4)	-	-
うち飼料用	4.0	4.5	4.5 (4.0)	-	-
輸 出 量	11.3	15.5	11.5 (9.5)	-	▲ 25.8
輸 入 量	0.0	0.1	0.1 (…)	-	-
期末在庫量	5.2	4.5	4.6 (4.5)	-	1.1
期末在庫率	22.3%	16.1%	19.0% (20.4%)	-	2.9
(参考)					
収穫面積(百万ha)	6.30	7.12	6.40 (6.00)	-	▲ 10.1
単収(t/ha)	3.93	3.83	3.75 (3.58)	-	▲ 2.1

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「Grain: World Markets and Trade」、  
「World Agricultural Production」(10 May 2016)  
IGC 「Grain Market Report」 (28 April 2016)

### 写真-5 ウクライナ南部 ドニエプロペトロフスク州

一節間伸長期～止葉期を迎えた冬小麦畑 (2016年5月2日撮影)

同地域の作柄は8割が良好、2割が例年並み。





## ケ カザフスタン

【需給状況】（詳細は右表を参照）

### <米国農務省の見通し>

生産量は、収穫面積が減少するとともに単収が低下することから前年度より減少し、13.0百万トンとなる見込み。

消費量は、前年度並みの6.9百万トンとなる見込み。

輸出量は、生産減に伴い前年度より減少し、7.0百万トンとなる見込み。

期末在庫量は前年度より減少し、期末在庫率も13.2%に低下する見込み。

### 【生育進捗状況及び作柄】

2016/17年度の春小麦の播種作業は、2016年3月から開始されている。

カザフスタン国家気象局（2016年4月）によれば、4月末現在、南部のジャンブル州、南カザフスタン州、クズロルダ州及びアルトマイ州では播種作業がほぼ終了し、大部分で第三葉形成期を迎え、生育状況は良好～並となっている。また、東部、北部及び中央部でも播種作業が開始されている。

カザフスタン農業省によれば、5月16日時点の麦類全体（小麦、ライ麦、大麦、えん麦等）の播種面積は96.4万ヘクタールと、前年同期（90.1万ヘクタール）を上回っている。

また、同省は、5月17日、2016/17年度の小麦生産量（調製前）見通しについて、前年度と変わらずの18.7百万トンと発表した。

### 【貿易情報・その他】

カザフスタン財務省税関監督委員会によれば、2015/16貿易年度（2015年7月～）の小麦輸出量累計（関税同盟加盟国（ロシア、ベラルーシ）を除く）は、2016年3月末時点で267.8万トン（対前年度同期比15.3%増）となった。国別内訳は、ウズベキスタン115.5万トン（シェア43.1%）、タジキスタン67.5万トン（同25.2%）といった中央アジア諸国が上位を占めており、次いでイラン21.7万トン、アフガニスタン19.7万トン、中国17.4万トン等となっている。

2016年5月16日、カザフスタン農業省農産物生産・加工局のカジベコフ局長は、穀物輸出に関しては、伝統的な輸出相手国はもちろん、現在、中国市場やイラン市場への進出も積極的に行っており、2016/17年度の穀物輸出量は、今後の天候次第であるが、前年度より若干多くなる見込みであると述べた。5月17日、同省は、穀物全体の輸出量見通しについて、8.0百万トンと発表した。

4月18日、マムイトベコフ農業大臣は、ホーガン欧州委員会農業・農村開発担当委員と会談を行った。同大臣は、カザフスタンは毎年10～20万トンの有機小麦を欧州市場に輸出しており、欧州では同国産小麦は高たんぱくのため穀物製品の品質改良材として購入されていると述べた。なお、有機小麦はスイスやその他の欧州企業による品質証明を得ている。

カザフスタン国家経済省経済委員会によれば、2016年5月1日時点の在庫量は6.6百万トンと前年同期（7.8百万トン）を下回った。うち、製粉用は4.9百万トン、飼料用は0.3百万トン、種子用は1.4百万トンとなった。

（世界の輸出量シェア 8位（2016/17年度 4.0%））

表-10 カザフスタンの小麦需給（市場年度：9月～翌年8月）

（単位：百万トン）

年 度	2014/15	2015/16 (見込み)	2016/17		
			予測値、( )はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	13.0	13.8	13.0 (13.5)	-	▲ 5.4
消費量	6.8	6.9	6.9 (6.7)	-	-
うち飼料用	2.0	2.1	2.1 (2.0)	-	-
輸 出 量	5.5	7.5	7.0 (6.5)	-	▲ 6.7
輸 入 量	0.6	0.1	0.1 (…)	-	▲ 25.0
期末在庫量	3.3	2.7	1.8 (3.4)	-	▲ 31.5
期末在庫率	26.3%	18.5%	13.2% (25.9%)	-	▲ 5.4

(参考)

収穫面積(百万ha)	11.92	11.57	11.00 (12.00)	-	▲ 4.9
単収(t/ha)	1.09	1.19	1.18 (1.13)	-	▲ 0.8

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「Grain: World Markets and Trade」、  
「World Agricultural Production」(10 May 2016)  
IGC 「Grain Market Report」(28 April 2016)

### 写真-6 北カザフスタン州

—春小麦播種前予定のほ場—（2016年5月15日撮影）  
5月7日に耕起し、5月中旬以降に播種を始める予定



## コ アルゼンチン

【需給状況】（詳細は右表を参照）

### <米国農務省の見通し>

生産量は、輸出規制撤廃に伴う生産意欲拡大により収穫面積が増加することから前年度より増加し、14.5百万トンとなる見込み。

消費量は、前年度より増加し、6.3百万トンとなる見込み。

輸出量は、前年度並みの8.5百万トンとなる見込み。

期末在庫量は、前年度より減少し、期末在庫率も8.3%に低下する見込み。

### 【生育進捗状況及び作柄】

国際穀物理事会(IGC)「Grain Market Indicator」(2016.4.28)によれば、2015年12月以降の通貨アルゼンチン・ペソの下落や輸出規制緩和を受けて、再度小麦を輪作体系に取り入れる生産者も出てきていることから、収穫面積は前年度比26.8%増の5.2百万ヘクタールとなり、生産量も前年度比29.2%増の14.6百万トンとなる見込み。

ブエノスアイレス穀物取引所週報(2016.5.19)によれば、2016/17年度の播種作業が2016年5月中旬から北部で開始され、播種進捗率は1.7%と前年同期(2.8%)を下回っている。なお、同取引所は、同国中部では4月の大雨により土壌水分過多となっているものの、播種面積については前年度(3.6百万ヘクタール)を25%上回る4.5百万ヘクタールと当初予測(2016.4.13)を据え置いた。

一方、5月19日、アルゼンチン農産業省は、2016/17年度の播種面積について、過去9年間で最大となる5.30百万ヘクタールと、前年度(4.37百万ヘクタール)から21.3%拡大するとの見通しを示した。

### 【貿易情報・その他】

アルゼンチン農産業省農畜食糧衛生品質管理センター(SENASA)によれば、2016年1～3月の小麦輸出量累計は313.3万トン(対前年同期比68.0%増)となった。国別内訳は、ブラジルが112.3万トン(シェア35.9%)と大半を占めており、次いでインドネシア54.3万トン(同17.3%)、タイ41.6万トン(同13.3%)等となった。

2015年12月17日、アルゼンチン政府は、農産物の輸出税を撤廃・引下げの旨を公示し、小麦輸出税(23%)は撤廃された。

また、12月29日、同政府は、穀物・油糧種子の輸出登録制度(ROE)を廃止する旨を公示した。これに伴い、2008年以前適用されていた輸出申請制度(DJVE)が再び導入されることとなった。

アルゼンチン地域農業生産者連盟(AACREA)「Informe de Mercados de Granos」(2016.5.3)によれば、2015/16年度(2015年12月～)の輸出申請制度(DJVE)に基づく小麦の輸出申請数量累計は、4月27日時点で6.0百万トン(製粉用小麦2.3百万トン、低たんぱく小麦3.7百万トン)に達している。2015/16年度の小麦の品質が比較的低いことや、同日時点の輸出向けの買付数量累計が4.4百万トンに留まっており更なる買付が必要なこと等から、国内の取引価格は上昇傾向にある模様。

(世界の輸出量シェア 7位 (2016/17年度 5.2%))

表-11 アルゼンチンの小麦需給(市場年度:12月～翌年11月)  
(単位:百万トン)

年 度	2014/15	2015/16 (見込み)	2016/17		
			予測値、( )はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	14.0	11.3	14.5 (14.6)	-	28.3
消費量	6.4	6.2	6.3 (6.3)	-	2.4
うち飼料用	0.3	0.1	0.1 (1.0)	-	-
輸 出 量	5.3	8.5	8.5 (8.4)	-	-
輸 入 量	0.0	0.0	0.0 (…)	-	-
期末在庫量	4.9	1.5	1.2 (1.9)	-	▲ 19.6
期末在庫率	41.8%	10.4%	8.3% (13.2%)	-	▲ 2.1
(参考)					
収穫面積(百万ha)	4.96	3.77	4.80 (5.20)	-	27.3
単収(t/ha)	2.82	3.00	3.02 (2.81)	-	0.7

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「Grain: World Markets and Trade」、  
「World Agricultural Production」(10 May 2016)  
IGC 「Grain Market Report」(28 April 2016)

写真-7 アルゼンチン ブエノスアイレス州(2016年4月30撮影)

—サイロバッグという白いプラスチックのカバーによるサイロ。  
アルゼンチンでは広く使われている—



写真提供: Ricardo Hara氏